

**製品名: Rap1GAP ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab16896**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	73kDa

**抗原情報**

遺伝子名	RAP1GAP
別名	RAP1GAP; KIAA0474; RAP1GA1; Rap1 GTPase-activating protein 1; Rap1GAP; Rap1GAP1
遺伝子 ID	5909.0
SwissProt ID	P47736
免疫原	Rap1GAP 由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 460-540

**背景**

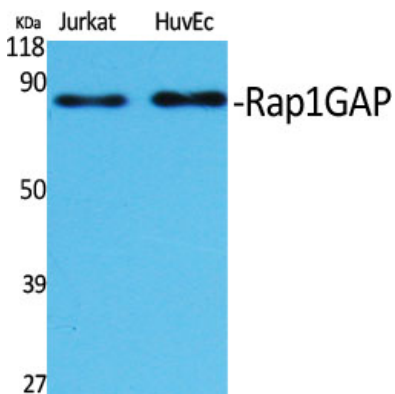
RAP1 GTPase 活性化タンパク質 (RAP1GAP) Homo sapiens この遺伝子は、ras 関連 RAP1 タンパク質の活性をダウンレギュレーションする GTPase 活性化タンパク質 (GAP) の一種をコードしています。RAP1 は、不活性な GDP 結合型と活性な GTP 結合型の間を循環

することによって分子スイッチとして機能します。この遺伝子の産物である RAP1GAP は、結合した GTP の加水分解を促進し、RAP1 を不活性状態に戻します。一方、他のタンパク質、グアニンヌクレオチド交換因子 (GEF) は、RAP1 の GDP 結合型から GTP 結合型への変換を促進することによって RAP1 活性化因子として機能します。一般に、RAP1 などの ras サブファミリーのタンパク質は、細胞の成長と分化を制御する受容体連動シグナル伝達経路で重要な役割を果たしています。RAP1 は、細胞増殖、接着、分化、胚発生などの多様なプロセスで役割を果たしています。選択的スプライシングにより、異なるタンパク質をコードする複数の転写産物バリエーションが生じる。[RefSeq 提供、2011 年 8 月]機能: 核内 Ras 関連調節タンパク質 RAP-1A (KREV-1) の GTPase 活性化因子であり、KREV-1 を不活性な GDP 結合状態に変換する。誘導: 前骨髄球性 HL-60 細胞において、12-O-テトラデカノイルホルモール-13-アセテート (TPA) によって誘導される。類似性: GoLoco ドメインを 1 つ含む。類似性: Rap-GAP ドメインを 1 つ含む。組織特異性: 脳、腎臓、脾臓で顕著な発現が認められる。大脳皮質に豊富に存在し、脊髄でははるかに低いレベルで発現している。リンパ組織では検出されない。

## 研究分野

シグナル伝達

## 画像データ



Rap1GAP ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



Rap1GAP ポリクローナル抗体を用いた COLO205 細胞のウェスタンブロット解析